

樽前山

1 概況

調査観測の結果、A 火口および B 噴気孔群では高温の状態が継続していることを確認しました。この期間、顕著な地震の増加はありませんでした。

2 噴煙活動の状況

A 火口、B 噴気孔群および E 火口の噴煙は概ね 50m 以下で推移しました。いずれも勢いは弱く平常レベルです。

5 月 1 日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測でも、各火口の状況に変化はありませんでした。

3 調査観測の結果

5 月 16 ~ 21 日に調査観測を実施しました。A 火口および B 噴気孔群では高温状態が続いていましたが、熱活動の新たな高まりは認められませんでした。

【A 火口】

噴煙は出口付近までは透明で途中からやや青みがかった白色となり、強い刺激臭が認められます。南側 5m 地点から赤外放射温度計(放射率 1.0*)で測定した火口の温度は 524 で高温状態を維持していました。

【B 噴気孔群】

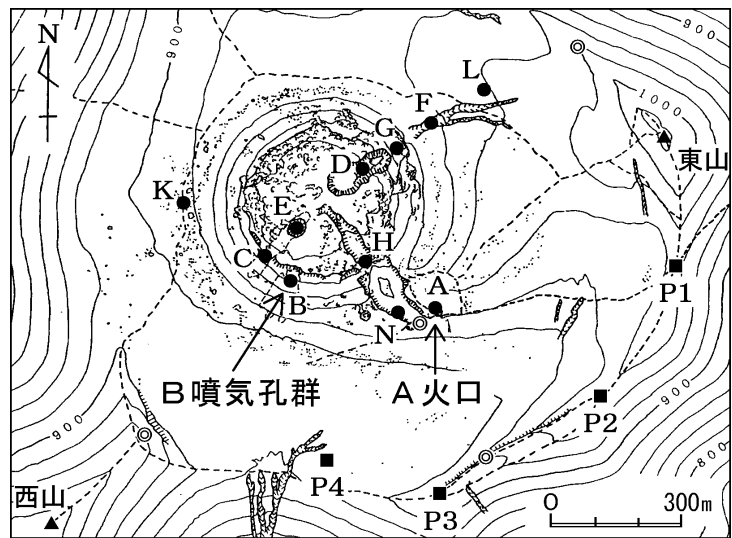
多数の噴気孔から白色の噴気をやや勢いよく噴出し、強い刺激臭が認められます。噴気温度の最高は 400 で高温状態を維持していました。

【その他の火口・地熱域】

特に変化はありませんでした。

【全磁力観測】

昨年から今年にかけて山体内部で熱活動が活発化したようなデータは認められませんでした。



樽前山ドーム周辺図

4 地震活動の状況

地震回数は 1 日あたり 0 ~ 7 回で推移し、顕著な地震の増加はありませんでした。震源はほとんどが従来と変わらず山頂火口原の浅いところ(海拔前後)と推定されます。火山性微動は観測されていません。

月別地震・微動回数(C点)

2002~2003年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	74	50	40	25	36	32	64	35	64	51	90	60
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5 地殻変動の状況

G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた場所から温度を測定できるが、はっきり対象が見えない場合や、熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。

また、同じ温度でも物体により放射の程度(放射率)が異なるため、その設定により温度が変わってくる。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率 0.9 ~ 1.0 に設定して測定している。



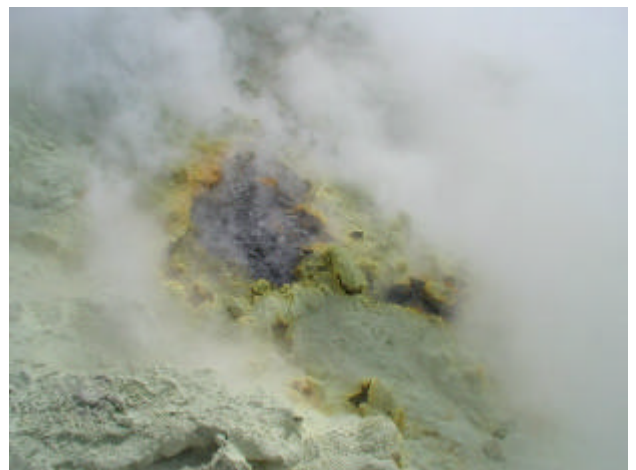
南側 30mから見た A 火口(5月 18 日)



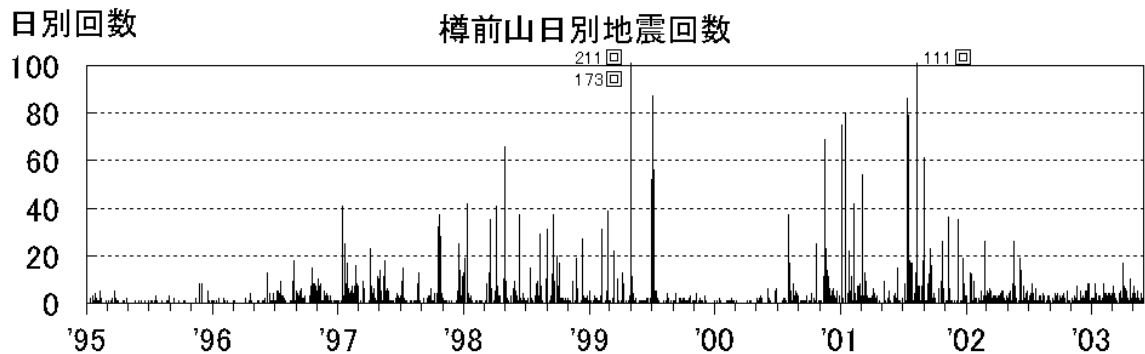
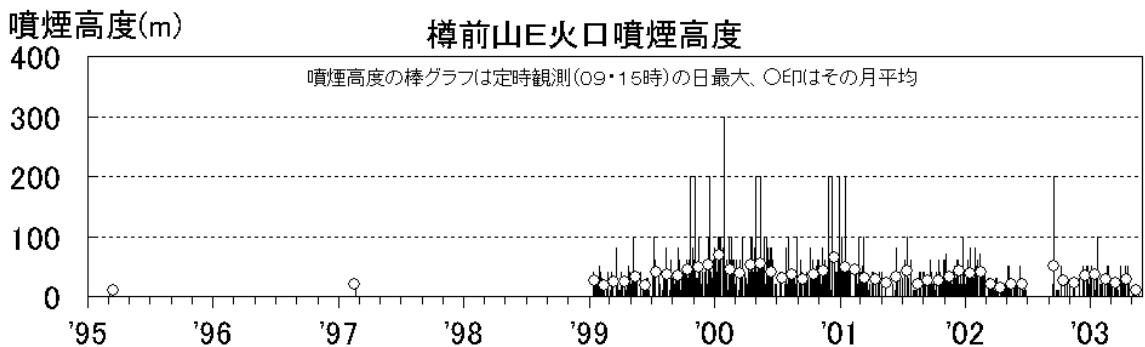
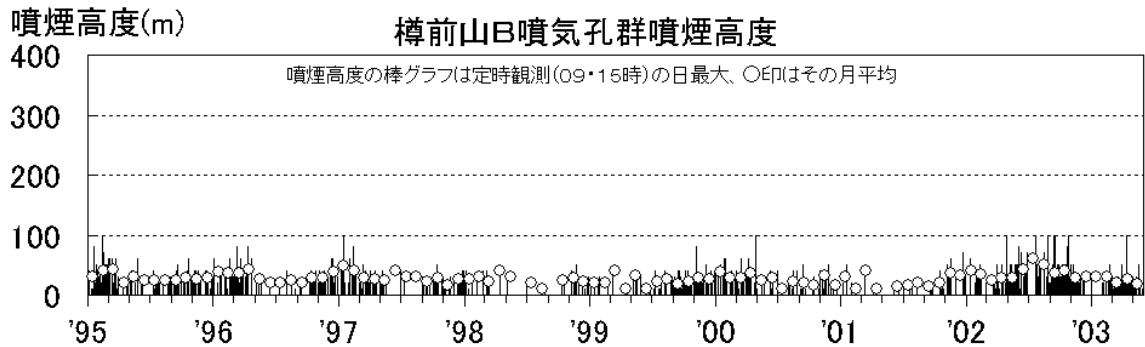
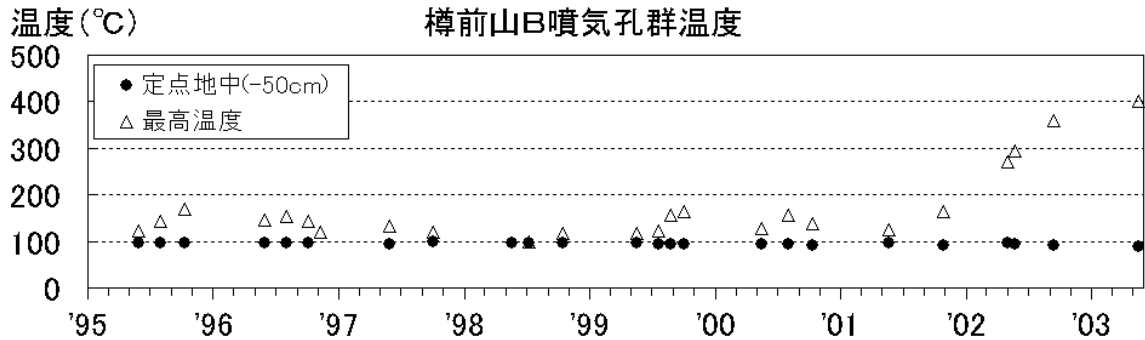
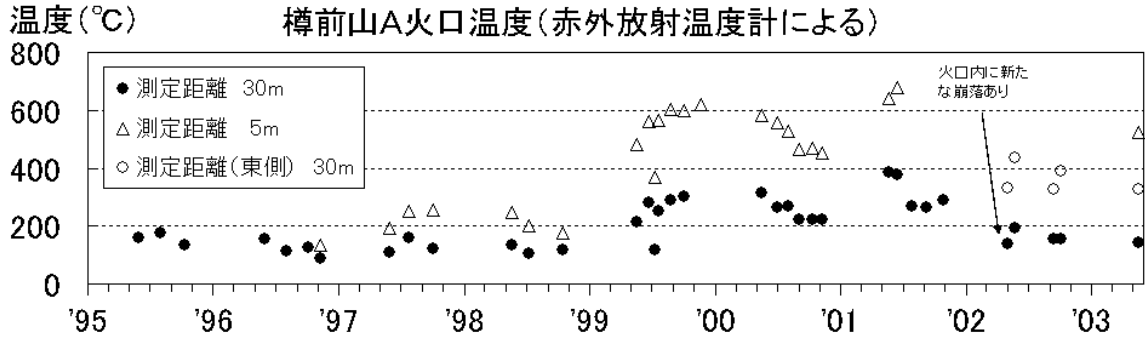
南側 5mから見た A 火口の噴出口(5月 18 日)



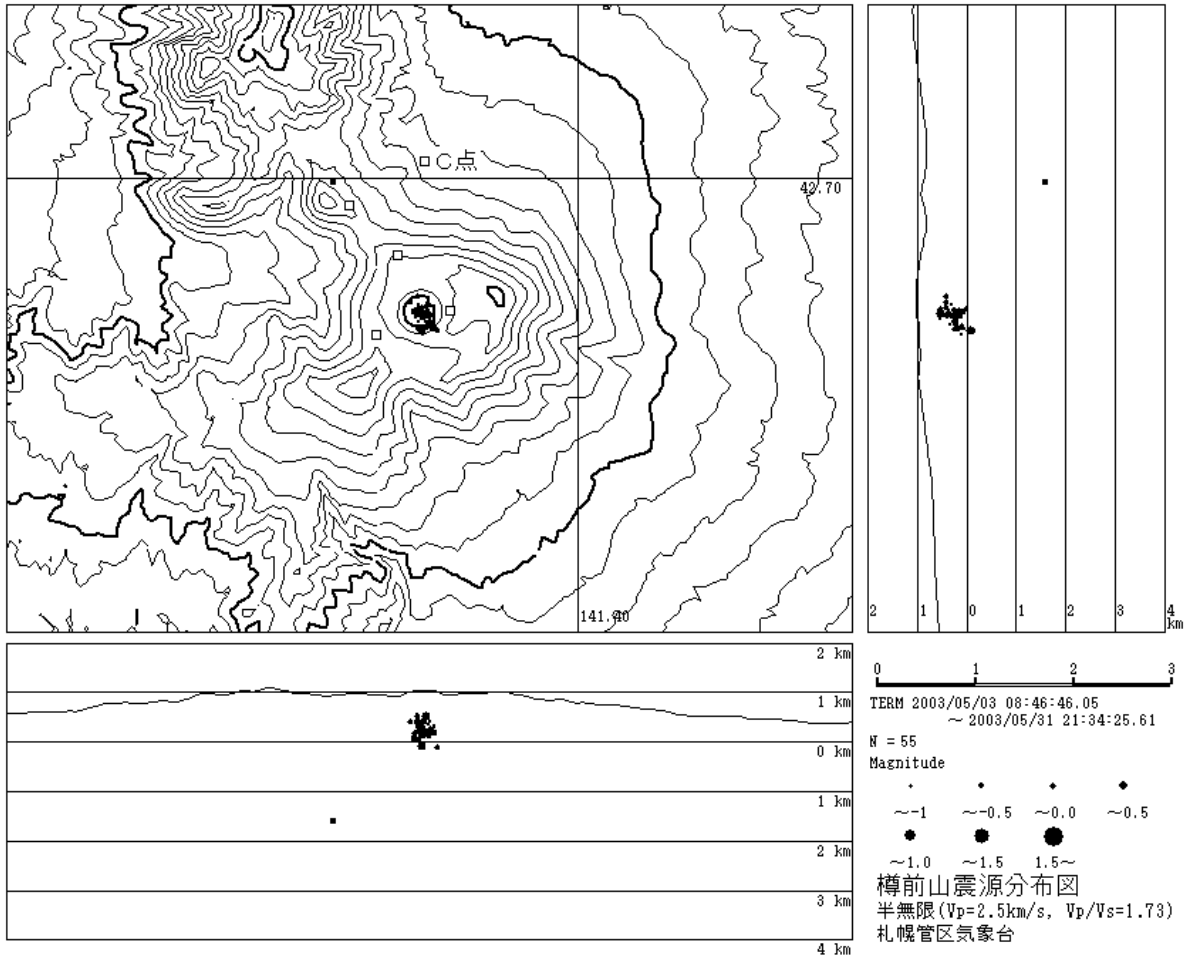
西山から見た B 噴気孔群(5月 17 日)



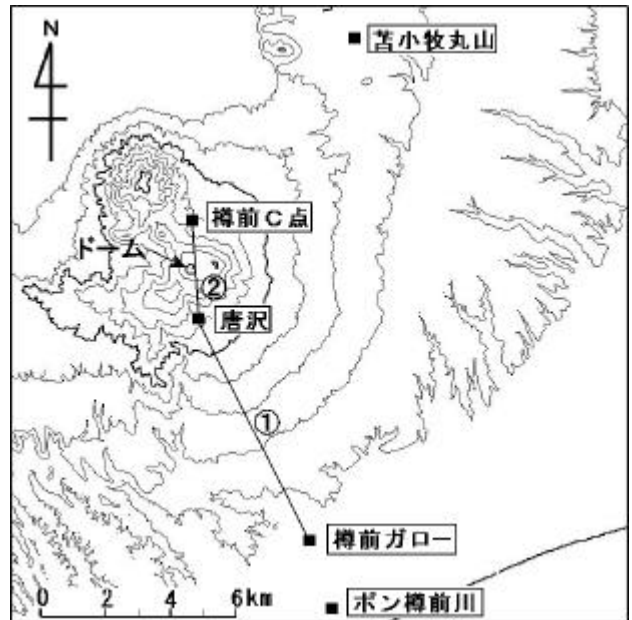
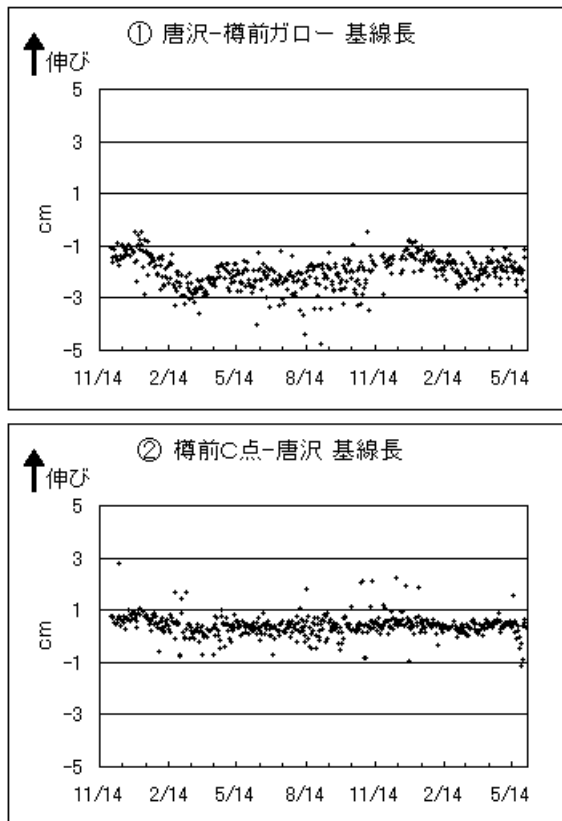
B 噴気孔群のクローズアップ(5月 17 日)



樽前山火山活動経過図(日別、1995年1月1日~2003年5月31日)



樽前山震源分布図(2003年5月1日~5月31日) 印は地震計



樽前山基線長変化(2001年11月14日~2003年5月31日)